

開会挨拶

総合司会・中村 年春

皆さま、こんにちは。定刻になりましたので、ただ今より大東文化大学と板橋区との共同開催による2006年度地域デザインフォーラム・シンポジウム「まちづくりと危機管理」を開始いたします。

本日の全体進行を務めます経済学部の中村年春です。

それでは、シンポジウムに先立ち、主催者を代表し、本学学長・和田守からご挨拶があります。



和田 守・大東文化大学学長

皆さま、こんにちは。本日は、学生のみなさんだけではなく、地域の方々、関係の方々、多数ご参加いただいております。学長といたしまして、大変ありがたいことでございます。私のほうから一、二お話ししたいと思います。



もともと地域デザインフォーラムというのは、総合司会の中村先生からも紹介がありましたが、今から6年前の2000年度に、板橋区と大東文化大学の間で協定を結びまして、地域社会が抱える問題について、それぞれの立場から共同研究をしていこうということで発足いたしました。この間、報告書を出版したり、シンポジウムを開催したりして、できる限り成果は広く地域の方々へ、関係の方々へ渡していこうという趣旨で始めております。

今回のシンポジウムは7回目で、「まちづくりと危機管理」と

いうテーマでございますが、このデザインフォーラムと並びまして、大学を代表しての私のお話を多少させていただきますと、板橋区のほうではこの4月から、基本構想といいまして、今後20年間を見据えての新しい区の発展の方向として、具体的なデザインを定め、そのもとで10年間の基本計画をたて、そして具体的な実施計画を定めることとなっております。基本構想の策定にあたりまして、たまたま座長を仰せつかったこともありまして、いろいろと関係の方のご意見を伺いながらとりまとめたのですが、皆さんの非常に強い関心というのは、この危機管理の問題でありました。安全で、安心して暮らせるまちという、切なる願いだと思っております。板橋区でも、これだけマンションも増えてきておりますし、地域社会自身が大きく変わりつつあるというなかにおける危機管理の問題は、従来の住民組織だけでは対応できない、新しく大きな課題として、皆さんが痛切に感じられているということだろうと思っております。

他方では、そういう問題について自分は何ができるのだろうか。自分も積極的に参加したい。そういう新しい問題関心、皆さんのお気持ちも生まれているというのが、新しい動向だろうと思っております。若い学生の皆さんも、板橋区にあるこのキャンパスのなかで、広い意味での地域の一人ひとりでございますので、こういった点について、本日のシンポジウムを通じて、いろいろと得るものがあるのではないかと思いますので、最後までお聞きいただければありがたいと思っております。

なお、本学では、地域デザインフォーラムの成果を受けまして、大学の教育、大学院の教育に関しまして、区の方々をはじめ、いろいろとご協力いただいております。そういった成果のひとつとしまして、来年(2007年)4月からは、公共政策学という、広く地域社会の問題を、経済や政治に限らず、総合的に学ぶ機会を提供するコースを大学院に設置することになりました。是非、私もここから育ててくれることを楽しみにしておりますので、今日、ご来場の方々に、ご関心がございましたら、総合司会の中村、あるいは何人か関係者もおりますので、ご質問いただければありがた

いと思っております。

他にも大学としてやるべきことはたくさんあるわけでございますが、今日はそのなかでの重要な柱の地域デザインフォーラムのシンポジウムであります。これから基調講演を青山先生にお願いいたしますが、東京都での豊富な行政経験、そして現在の大学をベースとした幅広いご活躍といったことから、われわれのような大学の中にいる人間とは違って、非常に多くの事例を踏まえてのお話をいただけたと思います。また、パネルディスカッションに関しましては、石塚区長をはじめ、地域の方々にもご参加いただくことになっておりますので、どうぞご期待いただきたいと思います。

やや話が長くなりましたが、挨拶に代えさせていただきたいと思います。皆さん、本日はどうもありがとうございます。